

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	平成15年4月の開所時より地域社会とつながりを持つことを大切にしたい理念を掲げている	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員の採用時や実習生の受け入れ時に理念を伝え理解してもらうようにしている。理念の実践に向けて具体的にはケアプランの中で具体化しており、日々のケアの中で取り組んでいる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	地域住民に対して、設置前から事業所の理念・役割を説明会等で伝えている。また、玄関近くの廊下に文書を掲示し、入居時に家族等に説明している。またホーム便りも活用して理解を促している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方が花や野菜を届けてくださることもあるが、回数が多いとはいえない。散歩に出かけた際には気軽に声を掛け合っている。	今後近所の方々との関係をいっそう深めていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域住民の一員として組合に入り掃除などの地域活動に参加している。地域の学校や福祉施設の行事に積極的に参加している。中学生が花を届けてくれたり地域の方が大正琴や踊り等のボランティアに来てくださっている。事業所のお祭りに地域の方を有線放送やチラシを使ってお誘いし交流に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取 組んでいる</p>	<p>人材育成の貢献として実習生を積極的に受け入 れている。事業所のお祭りでは毎年地域住民を対象 に講演会の時間を設けて認知症の方の介護や高齢 者の食事と健康などについて講師のお話を聞く機 会を持って地域貢献している。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員 で自己評価に取り組むようにしている。また、外 部評価の結果を踏まえ、ケアプランの作成の視点 や栄養士の配置、入浴頻度など改善計画を作成 し、取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では事業所からの報告と共に参加メ ンバーから質問・意見・要望を受け双方向的な会 議になるように配慮している。また自己評価・外 部評価についても詳しい内容まで報告している。</p>	<p>現在は家族会の代表の方に出席してもらっている が、今後はすべての家族にお知らせしてなるべく 多くの家族に参加していただけるようにしてい きたい。また入居者にも行事だけでなく話し合いの 場にも参加してもらえるように検討していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>ホーム便りを配布したり、法律面でわからないこ とがあった場合などは相談に乗ってもらって いる。また入居者の選定にあたってはホームと市町 村の考え方の違いがあり、試行錯誤しながら理解 を得ていくことができた。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用している入居者がいらっし やるため、管理者は「成年後見制度」「地域福祉 権利擁護事業」の研修を受けた。またそのケ ースへの対応については随時職員に説明・ア ドバイスをしている。</p>	<p>今後は全職員を対象に研修の機会を持ち理解を深 めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については研修してい ない。</p>	<p>今後研修の機会を持ちたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>受診に至らないケガでも家族に知らせた方が良い場合はすぐに電話等で連絡するようにしたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>家族会で職員は席をはずして家族同士で話し合ってもらう時間をとり、皆さんの意見や苦情等を代表者から伝えてもらうようにした方がより意見を出しやすいかもしれないので来年の家族会ではそのようにしてみたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>非常勤職員に対しては契約内容に変更がない年は理事長面接をしなかったが、今後は毎年面接をするようにしたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。新しい職員が入る場合も入居者にきちんと紹介し、入居者からホームのことを教えてもらうような工夫をしている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修係が全職員の要望を聞きながら年間計画に沿って非常勤職員も参加する内部研修を進めている。外部研修に参加した後は必ず全体会議で報告の場を持っている。また出張扱いにならない場合でも各種研修の機会を職員に知らせ、職員も傾聴の研修などに自ら積極的に参加している。</p>	<p>事業所内の研修は平等に実施しているが、事業所外の研修は受けた職員と受けない職員に偏りがあるので、段階に応じて平等に受けられるように配慮していきたい。特に非常勤の職員にもその機会を設けたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>飯田下伊那地域グループホーム相互評価検討会議に2ヶ月に1度出席している。その中で管理者や介護職員が情報交換したりお互いに訪問しあって相互評価を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務時間中にも横になって休める休憩室を確保している。また職員の親睦会を開いている。</p>	<p>職員の休憩室の夏の暑さ対策については、今後休憩に適した環境作りに取り組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営上どうしても必要な資格や研修については資格取得や受講を支援している。また労働基準法に則って職員の労働条件を整えており、就業規則はいつでも誰でも見られるし質問できるようになっている。また労働安全衛生法に則って健康診断の実施等職員の心身の健康を保つための対応をしている。</p>	<p>理事長は非常勤対応であり、そのために日常的に顔出しはしていないが、必要に応じていつでも対応してくれるようになっている。又、職員の資格取得に向けた支援や職場で活かせる労働環境作りについては、今後方策を探っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>市町村の意向で村外のグループホームから転居を希望しない入居者を受け入れたことがあったので、今後はそのようなことがないようにしたい。他のケースでは入居前に管理者が自宅に本人と居宅のケアマネの話を聞きに行ったり、本人がグループホームを見学に来ていたので結果的にはとてもスムーズに入居できた。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からこれまでの経過や困っていることや不安をじっくり聞いて、事業所としてはどのような対応ができるか説明している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の希望と家族の希望を別々にじっくり聞く機会を持ち、居宅のケアマネともじっくり話をした上で全員が揃った場でも話し合いの場を持っている。その中で「その時」必要としている支援を見極めるように努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族にホームを見学してもらうことから始め、職員が自宅に出向いたり、お茶を飲みに来てもらう機会を持っている。その中で入居者の中で知り合いがいらっしゃる場合はお話をするなどしてもらい安心感を持ってもらうように努めている。また入居した後も家族やケアマネに来ていただくなど精神的なフォローをしている。</p>	<p>入居前の見学や日帰り体験入居の回数をもっと増やしてもよいかもしれない。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>野菜作りや干し柿の作り方、地域の地理や昔の風習、子育てや人間関係のコツなど人生の先輩として入居者に助言してもらっている。また、調理や掃除などやっていただいた時には感謝の言葉を伝えるようにしている。また百人一首や詩吟など教養の高さなどについては言葉に出して敬意を表している。</p>	<p>入居したくないのに市町村の意向で無理やりよそのホームから転居した「悲しみ」や、もっと食べたいのに高血糖のために食べられない「苦しみ」を理解するだけでなく、言葉に表して共感しあった方がいいかもしれない。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、時には家族に伝えにくい入居者の気持ちを伝えることもあるし、家族の気持ちを代弁することもある。その中で家族と一致点や協力関係を築きながらケアを進めている。		家族だけでなく家族を支えているその他の親族についても連絡を取り合い一緒に本人を支えていけるように良い関係を築いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前より親子の関係が改善されたとのことをお話を家族からよく頂戴している。両者の思いを受け止めて、両者の潤滑油になれるよう努めている。		家族が面会に来易いようにホームとして対応したい。又、なかなか面会に来られない家族には、電話でも声を聞かせてもらえるようお願いしたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前まで利用していた美容院や食料品店や雑貨屋に行ったり、ホームの協力医ではなくて長年お世話になっている信頼できる主治医に往診してもらったりしている。また、自宅に来ていた知人がホームに来てくれている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係について職員が情報を共有し、入居者がみんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、入居者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。又、トラブルが起きそうな状況を職員が把握し、起きる前に対応するよう努めている。		入居者の中には人間関係が難しい方もいるが、不愉快なことがあった時には我慢するだけがいいのではなく、時には意見をぶつけ合ってけんかするのも人間本来の姿であるという認識を持ちつつ、試行錯誤しながらより良い関係が築けるように努めたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方も行事に招待している。また家族から手紙をいただいたり、こちらからも手紙を出すなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランに即した記録や、日々の状態変化や職員の気づきを個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また食事や水分摂取量、排泄やバイタルなどの身体状況も記入しやすく、確認し易いように工夫している。</p>	<p>情報の共有のために引継ぎノートを活用しているが、特に重要なことは毎日目が届く場所に貼る等して確認し忘れないような工夫をしたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。医療連携体制を活かしてその入居者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、今まで通りの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避に努めている。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>入居者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察や消防団、自治会や日赤奉仕団に協力をお願いしている。またホーム便りや有線放送などを通じてボランティアへの協力を呼びかけている。</p>	<p>なかなかボランティアに来ていただけないので、呼びかけ方を検討したい。また中には「ボランティアはオムツたたみ」等のイメージを持っていらっしゃる方もおられたので、グループホームをもっとよく知ってもらって、もっと気楽に来ていただけるように工夫して呼びかけていきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>隣のデイサービスに出掛けて大正琴や踊りなどを鑑賞させてもらったり、リハビリに参加させてもらったりしている。</p>	<p>今後はデイサービスの利用者をホームに招く等して交流の機会を持てるようにしたい。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に出席してくれる役場住民課の職員を通じて地域包括支援センターと情報を共有している。また入居者募集の際には村内の希望者の取りまとめの役割を果たしてもらったり、他の市町村とのパイプ役を果たしてもらったりと助けていただいている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるように支援している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようになっており、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。また往診依頼をしているケースもある。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医の判断で総合病院の精神神経外科を受診したことがある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間も状態変化に応じて24時間連絡を取り状態を報告し看護職員の指示で介護員が対応できるようになっている。</p>		<p>看護師に有償移送サービスの免許を所得してもらい、緊急時の通院には看護師が付き添うか、不在の時には遅れてでも病院へ行って状況を把握することができるようにしていきたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には頻繁に見舞うようにして本人の状態を把握すると共に病院関係者や家族との情報交換に努めている。また退院の時期や退院後の生活についても話し合いの場を設けて検討し、ベストな状況で退院できるように支援している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化した場合のホームとしての対応方針を説明し、その上で本人や家族の終末期のケアについての希望をお聞きして同意書を作成している。また状態の変化や家族の気持ちの変化、本人の思いに注意を払い、それに沿って対応するように努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人・家族・職員で作成した緊急時と終末期の同意書を元に、本人、家族、職員で主治医に希望を伝え、主治医からも家族に確認を取ってもらって、主治医と家族と職員が共に入居者を支えているように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。また本人には新しい住まいや受けられるサービスについてできる限りの情報を提供し、不安を感じないで住み替えできるように支援している。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の採用時には必ずプライバシーの尊重について具体例を挙げながら説明している。また日々のケアの中でお互いに気付いたことは注意し合うようにしている。個人情報保護についての研修会を事業所全体で行い職員の意識向上を図っている。</p>		
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食べたいもの・起きる時間・寝る時間・着たい服・テレビを見るか見ないか・散歩に行くか行かないかなど生活のあらゆる場面で本人に意思表示してもらえるようじっくり時間をかけて待つ姿勢でケアしている。また言葉での意思表示が困難な方については日頃の様子から好みや関心を察するように心がけている。</p>		
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の望みを聞いて、本人の望んでいるペースにあわせた暮らしができるように支援するように努めている。</p>		<p>散歩など早朝から夕方までいつでも本人のペースに合わせるといことができない時もある。職員の増員やボランティアの活用によってよりその人らしい暮らしが実現できるようにしていきたい。そして時間に追われずに本人の希望を把握したり、希望に沿った支援をしたりすることに職員が余裕を持って対応していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えの服を本人に選んでいただいたり、行事の折には希望者には浴衣を着ていただいたり、馴染みの店に化粧品を買いに行ったり、マニキュアを楽しんだり、馴染みの美容院でカットやカラーをしてもらえるように支援している。	衣類の管理は基本的には家族に依頼しているが、ボタンが取れてしまったりゴムが伸びてしまったりした衣類の補修を家族がすぐにできない時は、職員がなるべく早く対応するようにしたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを聞きながら献立を立てるようにしている。また一緒に買い物に行き、店の品物を見る中で献立を決めていただいている。できる範囲で調理や後片付けも一緒に行っている。一人ひとりの好き嫌いや身体状況に合わせて献立や料理の形状を配慮するようにしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きなお菓子や健康ドリンクと一緒に買いに行き、居室で自己管理していただいている。馴染みの店のお惣菜や外食が好きな方には職員が付き添って一緒に買い物に行ったり外食に行ったりしている。	
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットを使用している入居者に対してもなるべくトイレ誘導し、トイレでの気持ちよい排泄を促している。また失敗してしまった場合でも極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気付かれない等の配慮をしながら対応している。また極力オムツの使用を減らすように昼間はパンツで夜間はオムツなど本人の生活状況に合わせて対応している。便秘気味の方については、冷水を飲んでもらったり、体を動かすよう促したりしてなるべく自然な排便があるように支援している。	
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や希望する時間帯に入浴できるように、また、同性職員の介助を希望する方にはその希望に添えるように配慮している。また菖蒲湯やゆず湯など季節感を取り入れて楽しんでもらえるように努めている。	最低週2回は入浴していただけるように支援しているが、入居者の希望によっては夏場は回数を増やしたり夜間の入浴なども検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、昼夜逆転しないように生活リズムを整えるよう努めている。またその時々本人の状況に合わせて随時休息が取れるように支援している。椅子に座ったまま眠ってしまった場合には横になって休んでもらっている。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また本人や家族から好きなことを聞いて家での楽しみがホームでも継続できるように支援している。</p>	<p>特に本人が不穏になる時間帯には、職員が付き添い一緒に楽しむ時間を確実にとれるようにしていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の理解を得て自分で金銭管理をしている方や、ホームでお金を預かり管理している方でも、買い物時には自分で支払っていただくようにしている。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や本人の希望に応じて散歩や買い物や外出に出掛けている。歩行困難なケースでも車椅子で散歩に出掛けたり車でドライブに出掛けたりして季節を感じられるように支援している。</p>	
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人や家族から行きたい場所を聞き、出掛けられるように支援している。</p>	<p>まだ希望する場所に行けていない方や希望自体が出ていない方もいるので、ホームから希望を出してもらうように働きかけたり、実現するための方策を職員同士で検討し、支援につなげたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族に電話する時に「今から電話しますがお話されますか？」と電話の使用を促したり、入居前に暮らしていたホームへ手紙を書くことを促したりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は一応定めてあるが、それ以外の時間であっても気軽に訪問してもらえるような雰囲気作りを心がけている。また、他の入居者に気兼ねなく過ごしてもらえるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行い、職員の共通理解を図って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵を掛けずに、ドアを開けると音楽が流れるようになっている。入居者が外出したい時には、職員が引き止めるのではなく声をかけたり一緒に出掛けたりする等安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるように努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間ごとに入居者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できるよう全居室を見渡せる場所で待機している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>薬や洗剤・刃物など注意が必要なものについて危険がないようにしまったりカフェカーテンで目に付かないようにしている。</p>		<p>大掃除の前など、掃除用品を大量に買って、置き場からはみ出してしまうことがあるので、安全な置き場を確保したい。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>日々のヒヤリハットを記録し、全職員で一人ひとりの入居者のリスクの情報を共有している。受診に至った場合は速やかに事故報告書を作成し、事故原因の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。</p>		<p>ヒヤリハットの記録枚数が実際の危険回数よりも少ないように思われるので、どんな些細なことも記録し、事故に至らないように意識を高めたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>意識不明・のどのつまり・骨折・怪我などの対処方法について研修を行っている。心肺蘇生やAEDについては消防署の職員からの指導を受けている。夜間等の緊急時対応についてマニュアルを作成し周知徹底を図っている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時の避難誘導などの対応マニュアルを作成し、昼間と夜間の2回防災訓練（通報訓練・避難誘導訓練・消火訓練・緊急連絡網伝達訓練）を行っている。その際には消防署の職員の指導を受けている。また地域の総合防災訓練の際に自治会や消防団や日赤奉仕団の方にホーム内を見学してもらい、万が一の時の協力をお願いしている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>家族が安全のために外出を控えてほしいと希望されることがあるが、その弊害を説明し、ホームでできる対応を説明する中で理解を得られるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>全職員がすべての薬の目的や副作用を理解しているとはいえないので勉強の機会を作りたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>便秘が完全に解消されているとはいえないので、今後もより効果のある取り組みを模索していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>朝食後と昼食後は歯磨きの支援ができていない。今後は負担にならないようにだんだん取り組んでいきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防と対応の研修を受け、ペーパータオルの使用など予防に向けて取り組んでいる。また、本人と家族に同意いただきインフルエンザの予防接種を受けている。職員には事業所として補助を出している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は毎晩漂白し包丁やたわし等は熱湯消毒している。食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。		冷蔵庫の中やキッチン周りの掃除をもっと頻回にしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように玄関の内外にプランターを置いて季節感を出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛様や七夕の飾り付けを入居者と職員と一緒にしたり菖蒲湯や流しそうめん、おはぎ作りなど季節感を採り入れている。また童謡などの心地よい音楽を流すなどしてゆったりと穏やかに過ごせる工夫をしている。		ホールのテレビの音量については難聴の方もいらっしゃるためどうしても大き目になってしまい、その方が見ていない時はすぐに音を小さくするように努めているが、他の方との兼ね合いは今後の課題である。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、廊下やテラスに椅子を置いたりして、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>居室が家庭的とはいえない方がいらっしゃるので、家族に依頼して馴染みの物、たとえば水引を作っていた方は水引などを持ってきてもらい、居室に飾ってもらえるようにしたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>ホールの温度調節は体感温度に個人差があるため、今後の課題である。各居室にエアコンを設置し、個人の体感温度に対応していくことも含めて検討したい。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>リハビリが生きがいという方のためにホーム内にリハビリ用の機器を設置することも検討したい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>庭にテーブルと椅子やベンチをおく計画があるがまだ購入していないので、なるべく早く購入してガーデンライフを楽しめるようにしたい。庭作りも進めたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・その人らしく穏やかに笑顔で暮らせるように支援できるように心がけている。
- ・入居者の話をじっくり聞くようにして、できるだけ多く会話をしようと取り組んでいる。
- ・できることはなるべくしていただいて自信を持って生活してもらえるように努めている。
- ・外へ出る機会を増やすようにしている。
- ・食事や水分摂取、排泄等の身体状況に気を配り、毎日の健康管理に気をつけている。